粟生線・未来へと続くレールコンテスト　提案・取組一覧

資料-5

施策提言部門

表彰候補作品		学校名	部／科	題名	主な内容
神鉄賞	1	関西大学	経済学部経済学科	粟生線活性化に向けた提言	・上下分離（みなし上下分離）による運営 ・神姫バスとの連携 ・駅周辺開発促進に向けた自治体の関与と制度整備 ・運行停止による社会実験
●	2	関西学院大学	都市研究会	何度も乗りたい！みんなの粟生線！ ～地域住民に愛される列車を目指して～	地域住民の意識改革と粟生線利用者増加 ・昼市・夕市 ・コミュニティ列車
	3	流通科学大学	総合政策部	粟生線から考えるまちづくり	①高齢者の利用促進 ②サイクルトレインの導入 ③地元商業活性化との連携 ④地元交通機関への愛着
●	4	小野高等学校	商業科	神鉄かみてつプロジェクト	・神鉄を神様のいる鉄道としてPR

利用促進・啓発活動部門

優秀賞候補作品		学校名	部／科	題　名	主な内容
●	1	小野工業高等学校	生活創造科ほか	小野駅における高校生カフェ・関連イベントの開催	公共交通の利用を呼びかける取組として、8月22～24日、粟生駅において「高校生カフェ」を出店したほか、24日には関連イベントを開催
●	2	小野高等学校	美術部	「記憶に残る粟生線計画」 ～作って乗ろう！粟生線物語～	粟生線キャラクター　しんちゃん・てつくんを題材にした、絵本の製作
	3	小野高等学校	商業科	神鉄がなくなっちゃうかも！プロジェクト（子どもを対象としたMM）	・小野商店街内にあるアフタースクール「寺子屋」にて製作する神鉄に関する紙芝居でお話し会（予定） ・電車の乗り方教室の実施（予定）
●	4	小野高等学校	放送部	「この窓から」 VTR作品	粟生線の現状や協議会の取組をまとめ、自分たちが何もしなければなくなってしまう、と訴える内容
●	5	夢野台高等学校	放送部	「時を越え、山を越え、線路は続く」 VTR作品	神鉄利用者の今と昔を比較しながら、世代間あるいは地域・社会とのつながりを伝える内容
	6	三木東高等学校		経営アントレプレナー科目での取組	高校生カフェへの参加、神戸電鉄をいかしたまちづくりの提案や川柳づくり（予定）
	7	兵庫商業高等学校		粟生線を守ろう！高校生にできること	鈴蘭台駅前にて粟生線沿線のパンを販売するとともに、自分たちで作成した粟生線レポートを配布
	8	流通科学大学	サービス産業学部スポーツ健康マネジメントコース	「イベント列車：電車の中で脳トレ体操」	電車内での脳トレ体操を企画、提案。「貸切列車で行く！三木平井山お・も・て・な・しウオーク」（協議会主催）イベントにおいて協働
神鉄賞	9	関西大学	商学部	粟生線問題への主体的な関わりを通じた産学連携	SNSを通じた情報発信、協議会活動へのボランティア参加、折り紙・塗り絵作成による啓発活動

※　その他、エントリーはなかったものの、三木北高校では文化祭で存続を求める署名活動なども実施された。

粟生線活性化グランプリ
「粟生線・未来へと続くレールコンテスト」

グランプリ候補について

施策提言部門、利用促進・啓発活動部門のそれぞれでグランプリを決定し、グランプリには賞金１０万円、惜しくもグランプリを逃した取組・提案には審査員特別賞として賞金３万円を贈ります。

※高校生については、学校と相談の上、学校又は学校が指定する部活等の団体に賞金を贈呈いたします。

施策提言部門　グランプリ候補①

【名　称】関西学院大学　都市研究会
【内　容】何度も乗りたい！みんなの粟生線

朝市・夕市の開催

コミュニティ列車の運行

休憩場所の設置

乗る楽しみの提供

（シンちゃんの幸せの吊り輪）

施策提言部門　グランプリ候補①

【事務局による選定のポイント】

粟生線の維持存続には、地域住民の主体的な行動、参画が重要であり、協議会としてもそれを促すべくさまざまな取組を行っている。

本提案は、その取組をトレースし、膨らましたものであるが、イラスト等を交え、楽しく、気軽に参加できそうな仕上りとなっており、地域住民の共感を得易いものとなっている。

施策提言部門　グランプリ候補②

【名　称】兵庫県立小野高等学校　商業科３年生
【内　容】“神鉄かみてつ”プロジェクト

神鉄は“かみてつ”とも読むことができることから、「神様のいる鉄道」としてＰＲ

（具体例）

合格祈願グッズ　滑らず坂道を上る登山電車の特性に因む
合格祈願入場券　ＡＯ入試合格祈願入場券の発売など
受験の願掛け　　神棚、賽銭箱、絵馬等の設置・制作　等

施策提言部門　グランプリ候補②

【事務局による選定のポイント】

　受験を控えた高校３年生らしい提案であり、コンセプトやターゲットも明確であるほか、提案の実現可能性も高いと評価できる。

　実際、どういった神様を登場させ、神鉄を神様のいる鉄道としてブランディングしていくかについては、まだまだ検討の余地があるものの、これまでに検討してきた利用促進策とは異なる斬新なアイデアである。

利用促進・啓発活動部門　グランプリ候補①

【名　称】兵庫県立小野高等学校　放送部
【内　容】「この窓から」（ＶＴＲ制作）
※　詳細はＶＴＲ参照

【事務局による選定のポイント】
　粟生線の置かれた状況、維持存続に向けた主体的な取組の数々とその取組への思い等がコンパクトにまとめられている。
　「自分たちの鉄道は自分たちで守りましょう」との呼びかけは、協議会から地域住民に向けたメッセージを代弁するものでもある。兵庫県高校総合文化祭（１１月）放送コンテストにおいて“銀賞”を受賞。

利用促進・啓発活動部門　グランプリ候補②

【名　称】兵庫県立夢野台高等学校　放送部
【内　容】「時を越え、山を越え、線路は続く」
（ＶＴＲ制作）※　詳細はＶＴＲ参照

【事務局による選定のポイント】
　鉄道を題材として、現在の高校生とその親世代の鉄道利用に係る環境や意識等を比べることで、世代間の“つながり”や地域・社会との“つながり”など、鉄道が提供する輸送サービス以外の価値を共感の得やすい形で伝えている。
　また、昨年、有馬線において、事故の影響で営業運転が休止となった際の混乱を伝えることで、粟生線が廃止になった場合の影響を想起させるなどインパクトのある内容も含まれる。ＮＨＫ放送コンクール兵庫県大会（６月）において準決勝進出。

利用促進・啓発活動部門　グランプリ候補③

【名　称】兵庫県立小野工業高校　生活創造課
【内　容】小野駅における高校生カフェ・関連イベントの開催
～全校あげての取組と他校との連携～

高校生カフェ大盛況

小野工 地産地消にこだわり

小野工業高校（小野市匠生町）生活創造科「校生カフェ」が27日、市内で開催。3年生さん人による「高橋内のコミュニティ・ストア」（小野市匠生町）、粟生駅構内のコミュレス「あおすまあ」で始まった。初日は大盛況で、生徒が考案したオリジナルメニューは開店から30分で売り切れた。24日まで。

メニューは地産地消にこだわり、同市産の小麦「ふくほの香」や粟野菜を使ったパンケーキと、シャーベット状の飲み物「スムージー」を2種類つ用意。

この日は開店30分前の午前10時半から整理券を配り始め、同11時半には予定していた40食に達した。

生徒らは料理や接客、洗い物に大忙しで、ホールを担当した柳しずはさん（17）＝小野市大島町＝は「大変だけど、お客さんが喜んでくれてやりがいがあります」。加古川市から訪れた中谷恵子さん（68）は「おしゃれな料理と素朴な雰囲気に癒やされました」と話していた。

23、24日は60食を用意する。小野市地域交流推進課☎0794・63・1027

（吉田敦史）

にぎわう高校生カフェ。小野工業高生も大忙し＝小野市粟生町

８月２３日（土）神戸新聞

燃料電池鉄道

工作教室

バザー出品

粟生線の現況案内

利用促進・啓発活動部門　グランプリ候補③

他校との連携（左から、小野高校、社高校、三木東高校、ライブイベント）

【事務局による選定のポイント】

　本イベントは、粟生線のみならずＪＲ加古川線、北条鉄道など公共交通の利用を呼びかけるため、粟生駅前に賑わいを創出しようと企画されたものである。

　その中核イベントである高校生カフェを開催したのが、生活創造課であり、同様の取組を行っている上記の高校にも呼びかけ、取組の輪を広げているほか、同校の他の学科も一体となって、取組を盛り上げるなど、高校生パワー（同世代連携）を感じる取組である。

利用促進・啓発活動部門　グランプリ候補④

【名　称】兵庫県立小野高校　美術部
【内　容】絵本「しんちゃんてつくん」の製作

絵本を通じて、粟生線を心に刻むとともに、郷土愛の強い子供が育て、地域の活性化にも貢献したいとの願いを込めて製作。

利用促進・啓発活動部門　グランプリ候補④

【今後の取組予定】

　本取組では、粟生線利用促進活動補助金も活用し、５０冊の絵本を製作、地域の図書館、幼稚園、保育所等に配布を予定しているほか、地元の幼稚園、保育所等で読み聞かせを予定している。

【事務局による選定のポイント】

　子供や親子連れの利用が極端に少ない状況の中で、協議会としても、しんちゃん＆てつくんを活用した子供向けのモビリティ・マネジメントに注力しているところであるが、本取組はそれを大きく後押しすることになる。
また、ストーリー、本取組の波及効果イメージ（前頁のイメージ図）ともによく練られている。

粟生線活性化グランプリ
「粟生線・未来へと続くレールコンテスト」

神戸電鉄賞（1.5万円×２件）について

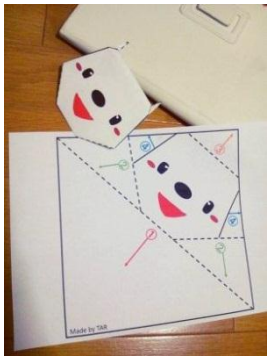
今回、惜しくもグランプリ候補からは漏れましたが、協議会や神戸電鉄とも密接に連携しながら、粟生線の活性化に取組まれている関西大学商学部の学生、および、今回、施策提言部門では唯一、経営形態や社会システムの変更に言及した提案をされた関西大学経済学部の学生に対して、神戸電鉄賞を贈ります。

神戸電鉄賞　関西大学の学生による取組・提案

【名　称】商学部　チーム粟生線リバイバル
【内　容】ＳＮＳを通じた情報発信、協議会活動へのボランティア参加、折り紙・塗り絵作成による啓発活動

Facebook

Twitter



神戸電鉄賞　関西大学の学生による取組・提案

【名　称】経済学部　藤田紗輔さんほか５名
【内　容】粟生線活性化に向けた提言

①みなし上下分離による運営
所有権の移転を伴わずに、設備投資、施設の管理等の費用を沿線自治体が負担

②神姫バスとの連携
ダイヤ調整、路線再編を通じた利便性・速達性の改善

③駅周辺開発に向けた沿線自治体の積極的な関与・制度整備
コンパクトシティの実現に向けて制度の不備を見直し

④運行停止による社会実験の実施
自治体・沿線住民の意識改革を促すべく社会実験を実施

※①～③については、第７回：人と環境に優しい交通をめざす全国大会 in 宇都宮に論文提出・発表の予定